

Grandmother ファームウェア更新 V1.0.6

2019年11月

Grandmother のファームウェアバージョン 1.0.6 には、多くの新機能といくつかのバグ修正が含まれています。

ファームウェアを更新する方法

1. Grandmother とコンピューターを USB ケーブルで接続します。

2. SysEx 送信ソフトウェアを開きます。

注：Bome SendSX for Windows または SysEx Librarian for Mac をダウンロードすることをお勧めします。

3. SysEx ソフトウェアで、MIDI 出力デバイスとして Grandmother を選択します。

注：SysEx Librarian では、これはアプリケーションウィンドウの上部にあるドロップダウンメニューにあります。Bome SendSX では、これはメニューバーの MIDI OUT メニューにあります。

4. ダウンロードに含まれている SysEx ファイル「Grandmother_FIRMWARE_INVALIDATE.syx」を選択し、[送信]をクリックします。Grandmother では、Arp Rate LED が赤/緑で点滅し始めます。

5. Grandmother を再起動し、SysEx 送信ソフトウェアで MIDI 出力デバイスから Grandmother を再選択します。

6. ダウンロードに含まれている SysEx ファイル「Grandmother_FIRMWARE_ERASE.syx」を選択し、[送信]をクリックします。

Arp Rate LED が赤で 3 回点滅し、その後緑で点滅します。これで Grandmother は新しいファームウェアのアップデート準備ができました。

7. ダウンロードに含まれる新しいファームウェアファイル「Grandmother_Firmware_v1_0_6.syx」を選択し、[送信]をクリックします。

Grandmother の Arp レート LED は、受信中にオレンジ色に点滅します。

8. 完了です！完了すると、Grandmother は新しいファームウェアで再起動します。

トラブルシューティング

ファームウェアの送信が完了した後、Grandmother Arp Rate LED がまだ黄色とオレンジ色で点滅している場合、または、Arp レート LED の点滅が停止し、ファームウェアが起動してもユニットが自動的に再起動しない場合

Grandmother の電源を一度切ってから入れ直し、USB ケーブルを抜き差しして、手順 1 からやり直します。再試行しても、ハードウェアを傷つけることはありません。

V1.0.6 リリースノート

新しいグローバル設定パラメーター

- ・オシレーター2 の周波数ノブの範囲
- ・クロック出力モード
- ・独立した MIDI OUT チャンネル割り当て

V1.0.6 に含まれるバグ修正

1. クロック入力 PPQN、クロック出力 PPQN を設定する際のオフバイワンエラーを修正しました。
2. MIDI クロック入力モードを修正しました。
3. ノートプライオリティの高/低モードを修正しました。
4. MIDI クロックを外部のステップアドバンスモードで使用しているときに、起こりうるロックアップを修正しました。
5. PLAY をオフにしてから再びオンにしたときに、MIDI ストップ/スタート、PLAY ボタン、またはリアパネルの ON / OFF IN ジャックを使用して、Arp HOLD ノートを保持できます。
6. キーボードのグローバル編集 UI からクロックイン/アウト PPQN を設定する際のエラーを修正しました。
7. ext アナログクロック入力に同期すると、アナログクロック出力が再同期し、ext クロック入力が停止して再起動します。これにより、アナログクロック出力と外部アナログクロック入力

の位相が維持されます（以前は、この位相関係は未定義/タイミングと運に依存していました）。

8. タップテンポ持続動作が変更されます。タップテンポパーシスタンスがオフの場合、ユニットはタップテンポを終了すると以前の内部テンポとクロック分周に戻ります。持続 ON の場合、テンポは終了タップテンポモードで変更されません。

10. ローカルコントロールがオフの場合、MIDI ノートにตอบสนองしてオシレーターピッチが更新されないバグを修正しました。

グローバル設定の詳細

Grandmother のグローバル設定にアクセスするには、SYNC ボタンが点滅し始めるまで（約 1 秒）、左手コントローラー（LHC）の HOLD ボタンとフロントパネルの SYNC ボタンを同時に押し続けます。これで、キーボードの黒鍵を使用して編集するパラメーターを選択し、白鍵を使用して選択したパラメーターの値を設定できます。

パラメーターは、キーボードの一番下の 10 個の黒鍵（ここでは F#0 から D#2 と呼びます）を使用して選択された 10 個のグループに配置されます。

上の 3 つの黒鍵（F#2、G#2、A#2）は、グローバルパラメータのより大きな番号のグループを選択するために使用されます。

たとえば、G#0 キーを押すだけで、グローバルパラメータ番号 2（MIDI Sync In）が選択されます。グローバルパラメータ番号 12（Gated Glide）を選択するには、F#2 キーを押したままにして（F#2 を押したまま）G#0 キーを押します。

現在、編集に使用できるグローバルパラメータは 17 個しかないため、G#2 および A#2 キーはまだグローバル設定に使用されていません。これらは将来の使用のために予約されています。

SYNC ボタンの LED は特別なパターンで点滅し、選択されているグローバルパラメーターを確認します。SYNC ボタンが 1~10 回点滅して、選択したパラメーター番号を示し、少し長い時間一時停止（暗くなる）してから繰り返します。

選択したパラメーターが大きい番号のグループにある場合、SYNC ボタンが点滅してグループ番号を示し、一時停止し、点滅してそのグループ内のパラメーター番号を示します。その後、長い間隔で一時停止して繰り返します。

たとえば、グローバルパラメータ番号 13（Transpose Immediately）が選択されている場合、

SYNC LED が 1 回点滅し（パラメータグループ 2、またはパラメータ番号に追加する「10」桁の数を示すため）、一時停止してから 3 回点滅します（現在のグループ内のパラメータ番号 3 を示すため、 $10 + 3 = 13$ ）、その後、長い一時停止の後、この点滅パターンが繰り返されます。グローバルパラメータ番号 4（優先度に注意）が選択されている場合、SYNC LED は 4 回点滅し、一時停止してから繰り返します。

Grandmother ファームウェア v1.0.2 のユーザーマニュアルには、最初の 10 個のグローバル設定が記載されています。

この更新（ファームウェア v1.0.6）は、グループ 2 にある 7 つの新しいグローバル設定を追加します。これらの新しい設定は、F#2 キーを押したままにし、（また）最低 7 つの黒いキーの 1 つを押してパラメーターを選択することで選択します。

オシレーター2の周波数ノブの範囲

F#2 を押しながら F#1 を押して選択します

- ・0 半音/オフ (F0)
- ・1 半音 (G0)
- ・2 半音 (A0)
-
- ・7 半音 (F1) -デフォルト
-
- ・18 半音 (C3)

Osc 2 Freq Knob Range は、フロントパネルの Oscillator 2 セクションにある FREQUENCY ノブ操作によるピッチの可変量を制御します。デフォルトは 7 半音です。範囲は 0~18 半音で、キーボードの任意の白鍵を使用して設定します（最低から最高の白鍵は範囲を 0~18 半音に設定します）。

クロック出力モード

F#2 を押しながら G#1 を押して選択します

- ・Arp / Seq が実行されている場合のみ出力クロック (F0) -デフォルト
- ・常に出力クロック (G0)

クロック出力モードは、Grandmother のリアパネルの CLOCK OUT ジャックにクロック信号を表示するタイミングを制御します。内部アルペジエーターまたはシーケンサーが実行されているときにのみクロックパルスを出力するか、常にクロックパルスを出力するかを選択できます。クロックパルスのタイミングは、BPM のテンポとクロック出力 PPQN 設定によって決まります。

MIDI チャンネル

MIDI OUT チャンネルのみを設定するには、グローバル編集モードに移動してから、最も高い黒鍵（G#）を押しながら、一番下の黒鍵（F#0）を押します。

次に、最も低い 16 個の白鍵で MIDI OUT チャンネル 1~16 を設定します。元の MIDI チャンネルグローバルオプション（最低の F# キーを押すだけ）は、常に同じように機能し、MIDI IN および OUT チャンネルの両方を選択したチャンネル番号に設定します。